第１回あいち国際戦略会議記録（概要）

（文責：愛知県国際課）

日　時　　平成 24 年 5 月 23 日（水）14:30—16:00
場　所　　県本庁舎　特別会議室
出席者　　別添出席者一覧のとおり（省略）

１．山口主幹から開会の言葉

２．山口主幹から委員の紹介

３．　議長選出
＜小樋山委員＞
　私が JICA にいた１５年前から鮎京先生には大変お世話になっており、JICA 事業の先導をいただいたので、国際戦略と言えば鮎京先生、ということで先生にお願いできれば、と思っている。
＜鮎京議長＞
　愛知の国際戦略と大変重要な会議であるが、委員のご紹介をいただいたとおり、大変多方面にわたり、しかも国際的なご経験が豊富な委員の皆様でいらっしゃる。皆様の知恵と経験を出し合いながら、是非、あいち国際戦略というものを積極的に打ち立てていくような会議にしていければと思う。私は元々、法律が専門で、特に東南アジア地域の援助を 20 年ほどしてきた。名古屋大学の副総長としては、この 4 月からということで、新人であり、いろいろと不手際があるかもしれないが、どうぞ宜しく。

４．愛知県における国際化施策の取組と現状
＜小山国際監＞
　資料 2 の説明を行った。
　資料 3 の説明を行った。

５．あいち国際戦略のイメージ
＜大村知事＞
　　本日、ご出席いただいている委員の皆さんからお考えをいただくのに当たり、議論の呼び水になるよう現時点での問題意識や描いている戦略の基本的な方向を説明させていただく。
■日本経済を取りまく厳しい状況
（経済の低迷）
○　2008 年に発生したリーマンショックの影響が大きいが、ＧＤＰについて、この何年かは増加していない。最近ではむしろ減少している。実際、2010 年にはＧＤＰで世界第２位の座を中国に譲ってしまった。最近はユーロも同様である。特に、この愛知県では、輸出型の製造業が中心であるので、影響を受けやすい。
（円高、原油高）
○最近、若干落ち着きを取り戻しているものの、また 80 円を割り込む状況になっている。県内企業においては、中小企業に至るまで、海外展開が不可避という状況になってきている。また、世界的には、原油価格の高騰、資源高、特にこの地域は電力確保のため、LNG の輸入の急増がある。
（東日本大震災の発生）
○昨年はサプライチェーンが寸断された。タイの洪水でも止まった。
（少子高齢化）
○少子高齢化の問題もあります。

■成長するアジア
（アジアの経済成長）
○　中国は、今後も二桁近い伸び（GDP）、アセアン諸国で６％程度、インドで７～８％の成長が見込まれている。
（経済連携の動き）
○また、ＦＴＡ（自由貿易協定）やＥＰＡ（経済連携協定）、ＴＰＰの動きもある。
○今の日本の政治状況では順調に進む様子ではないが、世界的には進んでいる。
１年数ヶ月県政に携わってきた間、海外からの来客も多い。また、県内企業、県民、各団体が直接海外に出て様々な活動を展開している。そこで、世界と闘える愛知・名古屋を作りたいと訴えて、国政から来た。この地域、愛知・東海地域がどのような形で海外と結びついていくかということは、県内企業や県民の活動にも無関係ではない。むしろ、行政が積極的に戦略展開を進める必要がある。そこで、発展するアジアの活力を取り込む国際戦略を作っていきたい。
（重点分野）
○一つ目は人材。国際的に通用する人材をいかに確保し、育てるかである。
○二つ目は経済。産業のグローバル戦略。
○三つ目は愛知県の魅力づくり。観光面だけでなく、ビジネス、コンベンションの誘致など、多くの外国人に来てもらう、魅力作りが必要。
（分野を横断する戦略）
○先月、経済界、県議員など 50 名ほどのミッションを組んで、ベトナムに渡航した。愛知県は、4年前にベトナム政府の計画投資省と経済連携協定を締結した。計画投資省の中に愛知県の企業サポートデスクを設置した。ズン首相を始め、各閣僚と意見交換した。このような連携は各地区から話がたくさん来る。積極的に門戸を開いて行き来したい。
○中国に関しては南京のある江蘇省と友好提携を30数年結んでおり、昨年12月に江蘇省に渡航した。江蘇省の書記である羅志軍さんとは８年前に東京で会っており、彼は当時南京市長か書記で、名古屋市との友好提携の関係で来日していた。その際の写真を持参して喜んでくれた。
今後もこのような友好提携はしっかりしていきたい。
（まとめ）
○　国際人材、産業、魅力 AICHI の三分野、そしてそれらを横断する戦略などを委員の専門分野ごとに縦・横・斜めから指摘いただき、国際戦略を発信していきたい。また、具体的な取組を進めていきたい。

＜鮎京議長＞　大村知事におかれましては、非常にお忙しい中おいでいただき、また、非常に論点をついていただきありがとうございました。

６．意見交換
＜鮎京議長＞
大村知事のお話も踏まえ、今日は委員の皆様方より、今の論点に関わる、或いはそこからはみ出る部分もあるかと思うが、愛知の国際戦略というテーマで日頃お考えのことをご発言お願いしたい。時間も限られているので、三分ぐらいでお願いする。順不同だが、この名簿に従って、豊田通商の神谷議員よりまずよろしくお願いする。

＜神谷委員＞
まず、私どもは民間なので、知事もおっしゃったようにいろいろな国と事業構築するそのなかで、日本は物づくりの国と言われているが、物づくりに関しては、企業の立場からすると弱くなっている。家電に関しては、殆ど韓国あるいは中国には勝ち目はないと思う。自動車ももう十年もすれば追いつかれてくる。

こんな中で、どういうことをやっていけばいいのか、企業としても相当悩みながらやっている。
　ひとつは、さきほど小山さんからもお話があったように、やはり人材と国際人をどうするかということ。特に、愛知県は中小企業が非常に生産を支えているが、こういう企業は海外へ出る意欲をお持ちのところもある。ところがやはり、人材がない。あるいは、海外でどうしたらいいかというところで非常に苦労されている。こういう方たちを育てていく。これは何も日本人ではなくても、外国の方に働いていただいても結構という風に思っている。現実、私どもの豊田通商の中でも、外国人がかなり日本で働いている。そのようなことをやって来て、やはり人材。
　それから、私は産業グローバル戦略の委員に入れさせてもらっているが、まず海外の投資、外からの投資をもらうということについては、日本は今、魅力のない国である。日本に来てもらっても、製造して勝てるメリットが日本にない。人件費が高い、土地が高い、それからもちろん円高、このような状況になると、今日本でモノづくりをしようという外国系企業はないと思う。となるとどうするかというと、逆の方向、外に出て行くということもあるかと思うのだが、これは大手の企業さんはやられていますし、今後やっていくのは中小企業ということになっていくかと思う。そういうところの中で、私は海外の方が、先ほど知事もおっしゃいましたが、非常にたくさん日本に来ている場合という話をしていく。何を望んでいるかということをつかんで、特に行政ということを見ると、我々民間でも、民間ベースのものはもちろんあるが、行政として、国として、あるいはその地域として、どういうものをその地域が望んでいるかというようなところは是非掴んでいただき、それを民間の方におろしていただく、あるいは我々の方でそんなことをやっていったら良いかと思う。
　愛知の魅力に関しては、私は昨年まで中国に5年ほど駐在していたのだが、まず日本語を勉強する人が中国人に非常に少なくなっている。おそらく日本に魅力がなくなっていることの表れだろう。もう一つは、愛知県という、私の生まれたところについては、外国人は、特に観光という面については、避けて通っている。要するに、大阪、関西、京都に行った後は、大体東京、或いは逆のルートである。しかも、泊る場合は、豊橋だとか、静岡、浜松で泊っている。やはり、愛知県は都市だということで、多少ホテルも高いかもしれない。そんなこともあって、意外と知られていない。これも参考にしていただきながら、皆さんのご意見が出てくると良い。

＜鮎京議長＞
　ありがとうございます。興味深いことを言われましたが、国際人材開発といわれたが、委員がイメージされる国際人材とは、どういう能力を持った人か。

＜神谷委員＞
　知識、語学力もさることながら、企業で言えば、基本的には、世界の常識、世界の中で他の方たちと一緒にやっていける、或いは経験を持った人だろう。

＜鮎京議長＞
　ありがとうございます。続きまして、国際協力センターアドバイザーの小樋山委員よりお願い致します。

＜小樋山委員＞
　私はＪＩＣＡで40年技術協力、あるいは人材育成に携わってきた。直近では、4年間ベトナムのハノイで人材センターの所長だった。先月までの1年半は名古屋駅のそばにあるＪＩＣＡ中部で民間アドバイザーをやらせていただいた。その経験も踏まえ、折角あるＪＩＣＡを使っていただきながら国際戦略を進めていくというところで何かお手伝いができたらと思っている。
　私は人材関連ということで指名いただいているので、人材については、3つのターゲット、或いは課題があるのではと思っている。一つは民間企業、もう一つは次代を担う若い人達、そして最後は留学生ということではないかと思う。アドバイザーをやっていたときに、民間の方々といろいろなお話をする中で、

本当に海外に出たいのだが、自社にはそういう人材がいなくて困っているというお話と、実際出たとしても現地でパートナーがなかなか見つからない、こういうような悩みを持っていると相談を受けた。ＪＩＣＡに限らないが、例えばＪＩＣＡでやっている青年海外協力隊、2 年間途上国で苦労した経験をビジネスに生かすという意味で民間企業にご紹介している。最初から自社のスタッフを１、２年間海外に協力隊員として送って、そして人材育成を図っていただいても良いという提案をして、そして関心をいただいたこともある。また現地は当然帰国留学生がキーパーソンになると思うが、そういうパートナーをつないでいくというところについても、ＪＩＣＡは１００の拠点が海外にあるので、何かお手伝いできれば使っていただければと思う。

二番目だが、ＪＩＣＡ中部に年間１万人ほどの方がいらっしゃっており、若者は確かに内向きだといわれているが、きっかけがあれば大きく変わっていく可能性が高いと思っている。どういう風にそういうきっかけを作っていくかということが重要だと思っている。

最後に留学生については、ベトナムにいたときに日本に留学生に話を聞く機会があった。そのなかで、東京・大阪は冷たいという感想を持つ学生も多くいた。鮎京先生がいらっしゃるから、決してお世辞ではないのだが、名大から帰ってこられた、愛知県から帰ってこられた学生は、比較的温かく迎えてもらったという感想を漏らすことが多くあった。そういうなかで、キーパーソンである留学生を地域としてどのように育てていくのかというのも課題の一つではないかと思っている。いずれにしても、そういう問題意識を持ちながら、広くいろいろとお話をさせていただけたらと思っている。

＜鮎京議長＞

ありがとうございます。ＪＩＣＡで非常に長くご活躍いただいたということで、愛知として包括した場合になにかキーワードはあるか。

＜小樋山委員＞

今までも話をされていたが、ものづくり。確かにものづくりもだんだん世界に勝てなくなっているという部分もあるが、70 億の中の例えば中国などというところを除くと、残った 50 億、あるいは 60 億に近い人達がいて、その人達はどうやったら自分の国を立ち上げるかというところで、やはり日本の経験を欲しているということが現実にあると思うし、だからこそ残念ながらＪＩＣＡがまだ頑張らなければならないということなので、そこに着目するということも先輩としての義務、あるいは権利としてあるのではないかと思う。

＜鮎京議長＞

ありがとうございます。続いて、愛知淑徳大学の真田委員、よろしくお願い致します。

＜真田委員＞

私はもともと銀行員である。東京銀行、東京三菱銀行、それからドイツの銀行に、そして今大学で教えている。それからもう一つは、銀行時代に、名古屋での駐在もあったのだが、香港と韓国に駐在し、北朝鮮にも行った。ほとんどのアジアの国はまわっているという経歴である。そういうことをベースにして話をしたい。

一つ目は金融面から見ると、米ドル基軸を中心とした貨幣経済によって、行き過ぎた信用創造が行われていて、今世の中は資金がだぶついている。そういう中で、お金がお金を生むような経済社会になってきているということで、物づくりに関してはかなりアンフェーバーになってきている。これは認識しておいて欲しい。

もうひとつは、特に日本に関して、特に愛知に関していえることは、大量生産大量販売型、いわゆるマスのビジネスが崩壊している。ここが日本の経済が、あるいは愛知の経済が厳しい状況にある一つのポイントである。マスのビジネスをするためには、先行投資をして早めに逃げ切った方が良い。このところの

スピードで日本は負けてきている。エルピーダもそういう意味では負けてしかるべきだった。韓国勢は国を挙げて戦おうとし、後押ししているので、時流に乗っているところがある。そういう意味で日本経済は痛んでいることは当たり前のように思える。これを再生するためには、二つあるかと思うがその前に、県の話をすると、税収の拡大と雇用機会の増大は意識されていると認識している。このキーワードから考えると、対策は二つあると思う。一つ目は、大量生産大量販売でマスの商売ができる日本オリジン、愛知オリジンの無国籍企業を育成していくことが一つ目のポイントである。

もう一つは全く逆サイドで、日本にいながらにして外貨を稼ぐ。少量でも良いから多品種、高品質高利潤の企業を一つでも多く、第一次産業も含めて排出をしていく。これによっておそらく雇用も、儲かれば税収の拡大も望めるのではないか。このあたりのことをイメージして、政策を立案していくことが重要なのではないか。

最後に具体的には、お金は余っているわけだから、お金をあえて作って、マーケットに放出するのは逆方向だと思う。金融緩和は逆方向だと考える。むしろやらなければならないのは、余っているお金をいかに上手に流れる仕組みを作るかということ。愛知県で大きなプロジェクトを立ち上げ、そこに人、物、金、情報が流れるようにする。しかもその時に財政支出を伴わない対策を作る。一つの事例は、ＵＡＥのドバイである。ドバイは金がないので青写真を作り、賛同できるもの、実現できるものを呼んだ。呼ぶときにお金も持ってこさせた。そうやって一時期の発展を作っていたことが大きなヒントで、愛知にそういうプロジェクトを立ち上げられないかということをイメージしている。

＜鮎京議長＞

ありがとうございます。大村知事何かコメントはありますか。

＜大村知事＞

おっしゃるとおりだと思います。具体的にどうすればいいか、また教えてもらいたい。

＜鮎京議長＞

引き続き、名城大学の田中委員、お願いします。

＜田中委員＞

私の専門はモノづくりである。リーマンショック後、トヨタグループさんと共同研究を行い、この１年は中小企業さんと共に、愛知の中小企業のアジア展開に関する勉強会に月一回、参加させていただいた。特に去年の夏以降、中小企業といえども海外に出ざるを得ないという環境が出てきた。中小企業の海外進出では、国際人材の確保という問題が大きい。中小のため海外に出す人材もない。それが中長期的に大きな制約要因のため、大学を通じて人材のネットワーク、海外の企業や人材とのネットワークを作るということが重要である。潜在的には、愛知の雇用を考えなければすぐにでも海外に出て行きたい、しかし、愛知では将来の仕事の保証がないということは、少なくともモノづくりの中小企業さんの中では共通認識となりつつある。

最近の海外進出の流れは、中国ではなく、ベトナム、インドネシア、直近ではミャンマーに出て行きたいが何かコネはないかという話が多い。愛知県は中国からの留学生が多いのだが、明らかに中国は曲がり角に来ている。一方で、急速に人件費が上がり、中小企業の倒産件数が著しい中国浙江省温州の中小企業家から、愛知の中小企業と何とか連携をしたいという話も聞いている。豊富な資金と市場開拓力に優れた中国の中小企業と、高い技術はあるが資金のない日本の中小企業を上手くマッチングすることは有効ではないかと思う。同時に、最近では中国からの留学生も頭打ちになりつつある。中国からの留学生に聞いてみると、簡単に言えばモノづくりに対する魅力が中国では減ってきていることが一因である。日本に来る留学生というのは、いずれは自ら会社を興して社長になりたいという夢があるのだが、今は中国でもモノづくりでは大きな利益や成功は難しくなっているため、サービスや販売の勉強をしたいという留学生が増

えている。そのため、長期的には愛知県にやってくる中国の留学生は減少するのではないかと危惧している。さらに愛知に来た中国人の留学生は地元の中小企業さんには目を向けてもらえないという問題もある。福岡あたりは留学生をうまく地元の中小企業に結びつける仕組みを作っているので、なんとか愛知県でも良い留学生の人材を県内で就業させて、県内企業の国際化に貢献できる仕組みが必要である。こうして、中小企業は県内の雇用を守りながら幅広く国際的なマーケティングを展開していく取組みを県としてバックアップできないかと思う。

＜鮎京議長＞
　ありがとうございます。私は名古屋大学ということで話をさせていただく。人材育成ということで、受入と送出しという両面について、まず受け入れについては今年の秋には留学生が 1,900 名となる。私がいた法学部でも、今 160 名ほどの留学生がいる。結局、こういった留学生をどのような言語で、どのような形で教育するかということが問題となる。名古屋大学は去年の秋から、学部の段階から全て英語による教育で、4 年間教育して卒業させることができるという制度を始めた。
　送出しについては、文部科学省がキャンパスアジアや、リーディング大学院と通常言っているが、日本の大学生や大学院生を、アジアを中心とする諸国へ派遣をする。そして半年か一年国費で派遣をし、現地のシステムや様子を学ぶということを新しく行っている。
　それからアジア諸国という関係で言うと、ベトナムのハノイやホーチミンの情報センターを始めとして、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタンに、私共のセンターを持っている。先ほどインドネシア、ミャンマーという話が出たが、なんとしてもインドネシアとミャンマーにセンターを作りたい。ミャンマーは難しい点があり、ヤンゴン大学には学部がないらしい。しかし、何とか作って学術交流を図りたい。

＜鮎京議長＞
　引き続き、ＪＥＴＲＯの戸塚委員、お願いします。

＜戸塚委員＞
　ＪＥＴＲＯの仕事は二つあり、ひとつは企業の海外展開の支援、もう一つは海外からの企業の誘致である。愛知のグローバルプランと考えたとき、大手の力のある企業が国際化を先導してきた。こちらのプランにも入っているが、世界に通用する愛知の魅力とは何かと海外の方を含めて聞くと、それは愛知などの一流企業であると認められている。海外展開の支援をしていくことは、行政サイドに必要なことである。これまでのグローバル化を先導してきた大手企業の競争力を失わせないということも重要である。そちらの支援も実行されているが、さらに続けていくことが愛知の魅力を減らさないため方法だと思う。

＜鮎京議長＞
　ありがとうございます。海陽中等学校の中島委員、よろしくお願い致します。

＜中島委員＞
　海陽中等学校というのは、中部の３社を中核にして日本の有力企業 80 社から支援を得て 6 年前に設立された。私は 3 年前から校長を務めているが、国際化はしていかないといけないと思う。英語、語学力は必要だが、それだけではなく、自分の頭で考え、議論をする力と、日本人としてのアイデンティティを確立することが大切である。
　帰国生の受入も積極的にやっており、学年に一割近くいるが、私が感じるのは、彼らはたくましく、努力して慣れようとしているのだが、苦労している。日本は外国人にとっては住みにくいのではないかという気がしている。異質なものを排除するという心情が高校生ぐらいから芽生え始めている。教育で感化させるよう努めているが、「日本は意外と外国人にとっては住みにくい」と最初に言い出されたのは、中根千枝先生である。ローカルな価値観やローカルな掟がたくさんあり、外国から来た方にはなじみにくい。中

根先生は、中国やインドの方がずっと住み易いとまで言っている。国際人材を育成するためには、愛知県を外国人が住み易いようにできればと思っている。そのためには、高校生など若い段階で、2，3 週間海外に派遣して、向こうの同年代の生徒と接触をする機会を持つのが重要だと思う。

＜鮎京議長＞
　続きまして、南山大学大学院八木委員よろしくお願いします。

＜八木委員＞
　私はアメリカ生まれだが、通算で 16，7 年日本にいるが、日本が住みにくいとは思わない。私は、まず提案が二つある。まず、国際戦略を作ろうと思うことについて、問題はアイディアではなく実施である。アイディアが足りないことはないが、問題は実行である。どんなに素晴らしいアイディアがあっても、実施がないと意味がない。
　私は去年キャリア外交官を引退したが、以前は公務員として市民の意見交換会によく参加した。案を作ったが、その後無視されたことがよくあった。役所は、何ができるかきちんと考えるべきだ。実行する方法がない提案は気をつけたほうが良いが、権限、予算などを考えて、大胆な提案よりも具体的な提案の方が良いのではないか。1 年で一つでも良いので、現実味のある提案の方が良いと思う。できることを中心にし、スローガンのようなあいまいなことはやめるべきだ。
　できることについて、私からは三つ提案がある。一つ目は、県ができることについて、一番いけないことはマイナス思考である。私は社会人として人生の半分以上日本にいるが、私は日本が非常に好きである。良くないところよりも良いところの方が圧倒的に多い。なぜ日本人が自分の国の良さを分からないのか、不思議である。マイナス思考は、悪質な病気である。マイナス思考をすると、人は頑張らない。マイナス思考をしていると悪循環に陥るので、それを完全に止め、楽観的になるべきである。いつでも大変なことはあるが、それを乗り越えるためにはプラス思考しなければならない。小さなことでも結果を出すことが大切だ。
　二つ目は教育である。日本の教育は、アメリカの教育が良いと言っているが、日本は入学試験や偏差値をベースとしている。それは、人口が爆発する時期は良いかもしれないが、今は少子化の時代なので、非常に時代遅れである。愛知県は、どちらかというと政治機関だが、政治の問題は経済に基づき、経済の問題は社会の問題に基づき、社会の問題は教育に基づくので、教育改革がないと、政治の問題は改善されない。文科省がやっていることが多いが、県内で何ができるかを考えるべきである。
　最後に英語である。日本の国際戦略は、ある程度皆英語力がないと上手くいかないと思う。私は南山に来て、200 人から 300 人ぐらいの学生に英語ができるかどうかの調査を実施した。会話ができる人は 0、発展途上国の小学 6 年生程度のちょっと簡単な文章でも書けなかった。
　私は大学生たちに、あなたの頭が悪いか先生達の教え方が悪いか、なぜ英語ができないのか聞いてみたが、皆は、先生達の方が悪かったといった。勿論、これは半分冗談ですが、確かにその残りの半分には、日本の教育には問題があると思う。そのことだけでも、県内でできることがあるのではないかと思う。

＜鮎京議長＞
　ありがとうございます。続きまして、日本福祉大学の山本委員お願い致します。

＜山本委員＞
　私は日本福祉大学の知多半島総合研究所という、地域を研究しているところにいるが、知多半島は愛知県で唯一観光の認定を受けたエリアである。その中の民間の観光ネットワークの代表もしている。十数年前、どうしても観光をやらなければならないと思ったきっかけは、製造業の衰退や、日本の中で新たに育っている産業は何かと見たときに、観光が一番大きいのではないかと思った。今でも観光は産業ではないという気風が強いが、観光を新しく産業として育てていくことの大切さは、小さな地域を地域として成り

立たしめていくということにとって、非常に大事だ。観光というのは、地域資源を活用しながら人に来ていただくということなので、たくさんの職種を地域に残すという産業だと思う。これなら地域が地域として成り立ち、人がそこに留まっていくということにとって、非常に大事だ。

最近は大村知事が頑張ってくれるので、多少は改善されてきたかと思うが、まだまだである。3 年ほど前、愛知県の観光振興計画の委員を務めたが、そのときも、県庁内の各部署に観光という視点がほとんど入っておらず、ばらばらのままで、ある意味効率的なお金の使い方をしていない。愛知県の観光振興計画を作ったときに、愛知県の企業に来ている外国人が観光できるような状況になっているかどうかという調査をしたが、基本的にはほったらかされている。日本国内でも、愛知県にビジネスで来ている外国人というのは相当たくさんいる。企業の中で担当者が旅行好きだと案内をしたりしているようだ。研修生でまとまってきて、長期に滞在する人達は、コンビニで何かを買って近場で遊ぶぐらいである。観光というのは、愛される愛知を創ることである。滞在している方々に愛知の魅力をどれだけ知っていただくかという努力をすべきである。お金が無くてもできることはたくさんあるが、愛知県全体の観光パンフレットにはやはりお金をかけていただきたい。中国の旅行社から、最初にパンフレットがなくなるのは愛知だといわれた。数か少ないためである。愛知県の財政状況は、東京に次いで第二位である。そこにお金をかけていないということは、国際戦略を考えていく土台ができていないと考える。そのことも改善しながらやっていきたい。

また、日本人は内向きだといわれたが、私は愛知県も内向きだと思う。東京にあった物産館を何年か前に閉じていることは、世の中の流れに逆行している。首都圏に観光物産館を出している都道府県はたくさんあるが、愛知県は出ていない。愛知県を知っていただく機会をどこで作りたいのか。観光という点では、愛知県はまず観光地の対象とならないので苦労しているのだが、そういうところを改善して欲しい。

＜鮎京議長＞

ありがとうございます。何か反論はありますか。

＜国際監＞

いろいろなご意見を頂きたいと思うが、内向きということで、我々自身も外向きになりたいとこういう場を設けさせていただいている。

＜鮎京議長＞

それでは、愛知大学の渡辺委員お願いします。

＜渡辺委員＞

最近は若者が内向きだというが、日本全体だと思う。国際の中で、観光というテーマは非常に重要になってくるだろうと思う。愛知大学は大部分は名古屋に移転したが、私は豊橋にいる。豊橋校舎の 5 つのコースの中で、一番苦戦をしているのが地域産業である。受験生には、愛知県で地域産業というと、中小企業を想定するようである。そして、中小企業の良さが発信できていないという気がする。私は今山本さんが言ったように、外国人にとって愛知県はどれだけ魅力があるかということはやはり気になる。私は愛知県の国際戦略はそれほど劣っているとは思わないが、外国人が愛知県に来る比率は少ない。最初に言ったとおり、外国人は福岡や関東に行くようである。やはり外国人に魅力を発信できていないと思う。

私は日本史が専門だが、幕末のええじゃないか騒動は豊橋が発信点だったのだが、それはほとんどの豊橋市民が知っている。そのようなものが、愛知県全体、あるいは東三河で探し出せて、それを発信できればと考えている。

＜鮎京議長＞

ありがとうございます。外国人にとって愛知がどれだけ魅力的かということは考えるに値する良いテー

マだと思う。
　例えば愛知県が一生懸命やっているベトナムに対する留学生の組織化というのは非常に上手くいっている事例である。愛知県にいるベトナム人留学生の懇談会を年に二回ほどやると、150 人ほど集まる。また、現地ハノイなどで帰国留学生の会をやると、60 名ほど集まるという。どれだけ魅力的かという問題は、何らかの形で、行政や大学が働きかけられれば上手く行き、放置すれば魅力的ではないということになる。
　残りの時間で、質問や意見を自由にお願いします。

＜中島委員＞
　配布資料についてお聞きしたい。資料の 3 の、日本人の海外経験において、2003 年に愛知県民の出国が異様に減っているのはなぜか。

＜国際監＞
　SARS（サーズ）の影響である。愛知県だけではなく全国的に落ちている。

＜神谷委員＞
　エドワードさんが英語が必要だとおっしゃったが、当社だと海外駐在をする人は、だいたいＴＯＥＩＣ 730 点を基準にしている。730 点というとかなりできるが、英会話は意外とできない。ＴＯＥＩＣが 500 点ぐらいでも、仕事をしてきてしまう。これは知識の問題だけではなく、慣れや経験が大きい。英語は必要条件ではあるが十分条件ではない。あれば自信につながるが、経験がかなり重要である。

＜鮎京議長＞
　英語教育が、愛知の国際戦略全体の中でどのように位置付けられるかということが大事だ。

＜神谷委員＞
　中小企業の人材不足についてだが、行政で仕切ってもらうと良いと思う。これは何年間かの繰り返しの中でやって欲しい。

＜田中委員＞
　昨年、震災後に同じ質問項目で愛知・岐阜・三重、関東７県、九州の三地域でモノづくりの中小企業を対象にアンケート調査を行ったところ、東海３県の中小企業では他の地域と比較して人材不足の問題が深刻であることがわかった。震災により一時的に研修生が帰国しただけではなく、日本人を含めた人材不足の問題が顕著に現れた。大手が海外に出て行った空洞化と並行して、中小企業の人材不足という地盤沈下が始まっている。事業の継承とモノづくり人材が確保できなくなっている中小企業では、外国人に頼らざるを得ないという実情も踏まえ、幅広い国際人材を育てていただきたい。

＜戸塚委員＞
　観光の話だが、もう少し広く、東海という地域を見なければならないと思う。愛知で言うと、産業観光が目玉だと思うので、それをどのようにより発信していくかが大切だと思う。

＜鮎京議長＞
　各委員の意見を聞いていただいて、大村知事から発言をお願いしたい。

＜知事＞
　貴重な意見を頂いた。先程、八木さんが言われたように、アイディアや計画を作るためにやるのは意味がない。何を実現していくのか、どのようにやっていくのかが大切だ。やれることをしっかりやっていき

たい。ちょっとしたことでできることはけっこうあると思う。そういうことをご指摘いただければと思う。来週教育に関する懇談会がスタートする。愛知県の公立教育、私立教育を含め、教育のあり方を議論していく中で、国際人材について考えたい。学校とどう連携していくかという中で、話はあがってくると思う。

英語教育は、今に始まったことではない。大学入試のためにやっており、その後使わなければ話せない。日本は普通の暮らしをしていると国内で完結してしまう。企業は昔から海外に出ているが、そういった人はごく一部であり、多くの人は使う必要がない。しかし、これからはそうはいかなくなると思う。そういった意味で教育とどう連携していくかということを次から考えていければと思う。

それから、観光振興地域づくりも含めて、国際人材と産業と魅力をつくっていくということについて、部会を作って、濃密にご意見いただきたい。よろしくお願いしたい。

ありがとうございました。

＜鮎京議長＞

知事には、お忙しい中いろいろとお話いただき、ありがとうございました。それぞれの部会を通じて、ぜひ良いご提案をしていただきたい。今日いただいたご意見は今後参考にしていきたい。

以上で予定していた議題を全て終わりましたので、事務局にお返しする。